

商店建築

4

SHOTENKENCHIKU MONTHLY MAGAZINE OF STORE DESIGN / INTERIOR / ARCHITECTURE 2015 Vol.60 No.04

アンケート特別企画

デザイン事務所を 運営する10のアイデア

New Shop & Environment

HINOKIZAKA / THE BAR

The Ritz-Carlton Tokyo

Feature Article 1

Casual Restaurant

Feature Article 2

Bodycare & Beauty Space



GLOBAL ×
CREATIVE ×
LUXURY
with GARDE
vol.1

シーンを思い描くことで生まれる、 新たなデザイン

GARDEチーフデザイナー・山本豊氏に聞く

国内外で、百貨店やハイブランドのストアデザインなどを数多く手掛けるギャルド・ユウ・エス・ピー。ここでは、同社のクリエイションに注目し、そのデザインフィロソフィーを紹介していく。第1回は、デザイナーとして活躍する山本豊氏に、自身が生み出した高空間と、クライアントとのかかわり方について聞いた。

クライアントの思いを共有し、顧客の視点を取り入れつつ新たなデザインを提案していくその経験には、ギャルドに入社した直後の海外での経験が大きく影響していると言います。

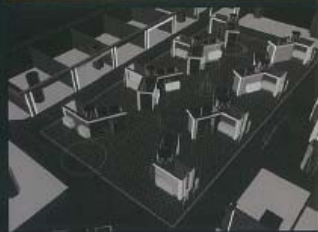
「現在、イタリア・ミラノには現地法人がありますが、その設立前に現地設計事務所に出向した2年間は、多くのことを吸収する貴重な期間だったように思います。街自体が大きな「舞台」であるイタリアの都市では、路地を抜ける視界が突如開け大聖堂が出現するなど、街中で感動を与えてくれるシーンに出会います。それは、実は緻密に計算されたものなのですが、建築家が数学者であり、芸術家でもあるイタリアらしい魅力を感じました。そうした日常から、空間の生き生きとしたシーンを思い描きながら、デザインを進めていくことが自然と身に付いていきました」

今でもその当時学んだスタイルを重視し、魅力的なシーンをつくり出すことに注力しているという。また、20代の頃から海外に赴く機会が多くあり、インポートブランドの設計に携わってきたことも現在の活動のバックボーンになっているようだ。執筆に欧米にリサーチに行き、そこで最新のエッセンスを感じられるように手掛けているという。「常にグローバルな感覚を持ち、世界の潮流を体験することで、日本的な慣習にとらわれずにプロジェクトに向き合うことができているように思います。世界を飛び回るバイヤーたちとの共通言語を持ち、スムーズな意思疎通をするにはこうした経験が欠かせません。バイヤーに眼

らず、クライアントとのイメージの共有にも大いに役立っています」
そうした「既成概念にとらわれない視点」が生み出したデザインの一つが「阪急百貨店うめだ新本店」第1期リニューアルでラグジュアリーファッションを取り扱うフロアで実践された。後の全面リニューアルに向けて、いったん売り場面積が約半分程度となる条件下で、MDの特性もあるため、ただブランドを詰め込むだけではお客様に足を踏み入れてもらえない。そこで、「お客様を世界観に引き込み、気持ちよく買い物をしていただける空間」「歩いてみたくなるような魅力あるシーン」を創出するために試行錯誤を繰り返し、一般的な90°のモジュールで壁を構成する発想をやめ、120°の角度を基準とした売り場（CG参照）を構築した。その結果、歩き進むごとにシーンに変化が生まれ、気持ちよく買い物ができるフロアが誕生した。顧客側の視点に立つことで生まれたアイデアは、その後の阪急百貨店うめだ本店のグランドオープンへの大切な一歩となった。

クライアントとのかかわり方については、「要望の裏側にある理由を知ることで、始めて真に必要なデザインを考えることができる。また、新しい提案をする際にも、クライアントの持つノウハウ、我々が国内外の仕事で得た経験を出し合っていくことで、互いの接点を根気強く探していくことが重要なことです」と語る。

クライアントの強みを読み解く経験と知識、そして全体を冷静に見つめるデザイナーとし



上・右下から3点 / 「阪急百貨店うめだ本店」のインテリア 下左 / 「阪急百貨店うめだ新本店」第1期リニューアルのCGパース

での視点が、空間の意味を汲み取りながら新たなデザインを創出する原動力となっているのだらう

現在のギャルド東京本社には多くの外国人が在籍し、ヨーロッパ、アメリカ、アジアの拠点と連携しながらプロジェクトが進行している。「ワールドワイドに社内システムのサポート体制があることは心強く、また、国内外で仕事をやるチャンスを与えられてきたことに感

謝している。今後は、海外に向けた体制を足掛かりにグローバルな感覚を培う一方で、日本人クリエイターとしての感性を研ぎすまし、世界で活躍していきたいと思っている。日本人デザイナーがまだ手掛けたことのないこととにチャレンジし、できればアメリカの百貨店を手掛けて世界があっと驚くようなデザインを展開してみたい」とビジョンを語ってくれた。

※まもと、ゆたか、晴吉大学建築学科卒業後、ギャルド・ユウ・エス・ピー入社。2001年よりイタリアのDUCCIO GRASSI ARCHITECTSに出向。大型商業施設・環境デザイン・インテリアデザインを中心に活動。主な仕事に「コレド日本橋」抽選センター、「阪急うめだ本店」1階（即席販売）「豊島橋」百貨店、阪急同社の環境デザイン事業部に所属。大型商業施設や百貨店のデザインを数多く手掛けた。現在は東京アジアを中心に海外案件のデザインに携わる。

【お問い合わせ】
ギャルド・ユウ・エス・ピー TEL: (03) 3407-0007